

説 教 「オープン・チャーチ礼拝」 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2023年6月18日（日）

主 題：「変えられたいあなたへ」  
—「出会い」—

聖 書：マタイの福音書28章1-10節

### はじめに

・おはようございます。

- ・先日のことですが、「あなたが日本に住む理由」というTV番組を見ました。それはたいへん興味深い話しで、最近増えつつある外国人が「なぜ」日本に住むようになったか、その理由を掘り下げる番組でした。
- ・その時登場した人は、30年以上も前にアフリカ・ガーナから日本（東京）にやって来た男性でした。彼は日本文化に興味を覚え、日本をもっと知りたいと思い来日しました。
- ・それまで、彼が本で学んだ日本という国は、男性は皆大相撲力士のように「まゆ」をゆい、女性は皆美しい着物を着ている社会でした。しかし空港に着いた彼は、びっくりしました。左右どこを見ても、それらしき人の姿は見当たりません。彼の第一印象は、本で読んだ日本とあまりにも違うショックでした。
- ・彼が来日した時の所持金は、15万円でした（ガーナでは大金）。しかし、その所持金はすぐ使い果たしました。これも大きなショックでした。そこで彼は生きるため、仕事を探し始めました。
- ・ところが、なかなか仕事が見つかりません。彼は探しても、探しても見つからないことに、誰も雇ってくれないことに失望しました。それは3番目のショックでした。すっかり気落ちした彼は、もう帰国しなければならない状況に陥りました。その時でした。ダメで元々と思い、ある会社を訪ねて、仕事を与えてくださいと懇願しました。
- ・すると、奥から社長が出てきました。社長は彼が訪ねてきた理由を聞いて、「分かった」と言い。それからその社長は親身となって、彼の相談にのってくれたそうです。社長は、優しい良い人で職場や住まい、それに彼の私生活に至るまで、家族のように世話をしてくれたそうです。
- ・もし、その社長が目前に現れなかったならば、自分は母国へ帰国しようと考えていたそうです。

- ・彼は親切な社長との「出会い」によって、日本に滞在できるようになりました。そして、人生が大きく変わりました。日本が大好き人間となりました。
- ・彼はその後結婚し、東京でガーナ・レストランを経営し、郷里の民族料理を提供するオーナー・シェフとなっています。彼の人生を大きく変えることとなったのは、一人の社長との「出会い」でした。

良い人との出会いは、良い影響を受けます。逆に  
悪い人との出会いは、悪い影響を受けます。

- ・あなたの人生は、いかがでしょうか。あなたは、これまでどんな出会いを経験してこられたでしょうか。

- ・私たちは日常生活で人との「出会い」があります。そして、その「出会い」によって、人生が変わることがあります。  
今日の聖書箇所（マタイ28章）は、2人の女性がイエスに出会ったストーリーです。イエスはその前に十字架にかかり処刑され、墓に葬られていました。2人は失望の中、イエスの墓に向かっていました。
- ・しかしそこで待っていたのは、天の使いでした。み使いは言いました。

マタイ福音書

28:5 御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。

28:6 ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。

28:7 そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。」

- ・女性たちは恐ろしさに包まれました。そうでしょう。死んだはずのイエスがよみがえられたと、聞いたからです。しかしその彼らに、今度はイエスが直接に現れました。

28:9 すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。

⇒ 2人の女性たちは、イエスに「出会い」しました。

- ・そして復活のイエスに出会ったのは、2人だけではありません。いいえ、イエスの12弟子をはじめ、何百人、何千人もの人々がイエスに出会いました。
- ・多くの人々が、死からよみがえられたお方イエス・キリストとの「出会い」によって、人生が変えられてきました。出会いは、人を変えます。

① クリスマス（聖徒）が生まれた

- ② キリスト教会が生まれた、牧師、宣教師が起こされた  
 ⇒今では、全世界にキリスト教会が建てられ、クリスチャンはいます。  
 そして社会、共同体、また個人も変えられてきました。
- ・イエスとの「**出会い**」、それは一体何をもたらしたのでしょうか。 2点

### 大切なポイント

#### 1. 「喜び」と「力」が与えられる

##### 1) 「喜び」が与えられる

- ・新約聖書には「喜び」（ギリシャ語：動詞 chairein or 名詞 chara）、が、合わせて132回で使われます。一例を考えてみましょう。
- ルカ福音書19章1-10節
- 19:1 それからイエスはエリコに入り、町の中を通っておられた。
- 19:2 するとそこに、ザアカイという名の人がいた。彼は取税人のかしらで、金持ちであった。
- 19:3 彼はイエスがどんな方かを見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見ることができなかった。
- 19:4 それで、先の方に走って行き、イエスを見ようとして、いちじく桑の木に登った。イエスがそこを通り過ぎようとしておられたからであった。
- 19:5 イエスはその場所に来ると、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」
- 19:6 ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。
- 19:7 人々はみな、これを見て、「あの人は罪人のところに行って客となった」と文句を言った。
- 19:8 しかし、ザアカイは立ち上がり、主に言った。「主よ、ご覧ください。私は財産の半分を貧しい人たちに施します。だれかから脅し取った物があれば、四倍にして返します。」
- 19:9 イエスは彼に言われた。「今日、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。
- 19:10 人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」
- ・まず、当時の取税人という仕事を考えてみましょう。イエス時代のイスラエル社会は、ローマ帝国の統治下でした。ユダヤ人たちは、ローマ政府に税金を収めることは義務づけられていました。（その上、彼らはユダヤ人としてエルサレム神殿に献金を捧げることも務めでした。）

- ローマ帝国は非常に賢く、ユダヤ人たちの納税はユダヤ人を使いました。それは「人頭税」と呼ばれるもので、税額の一定額以上のお金は取税人のポケットに入る仕組みとなっていました。ザアカイはこの人頭税で、相当額をポケットに入れていたと思われます。そればかりか、彼は脅しとっていた金もあったようでした。
- そのようなザアカイですから、当然社会では嫌われ者であったでしょう。誰も親しい友はいなかったでしょう。そのザアカイがイエスに出会いました。しかもイエスから声をかけられたのでした。
- 取税人ザアカイにとって、イエスとの「**出会い**」が決定的でした。彼は喜んでイエスを迎えました。彼は喜びのあまり、財産の半分を貧しい人たちに施します、と言いました。また誰かから脅しとったものがあれば、4倍にして返す、と言いました。  
⇒イエスに出会い、イエスを迎えた喜びは、お金以上のものでした。
- なぜ、ザアカイはこのような行動を取ったのでしょうか？  
彼は社会で嫌われ者、悪徳取税人でした。誰にも相手にされない人でした。そのような者の家に、偉大なお方イエスが来てお泊まりくださるといいます。彼にとっては、信じられない贈り物、サプライズでした。
- 皆さん！ **喜びは生きる力です。**  
イエスが来られたのは、人を救うためでした。イエスは次のように言われました。

## 2) 「力」が与えられる

### • 使徒の働き 1 章

1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

- ここに「力」を受けますと記されています。「力」（ギリシャ語：dynamis）この語は、あのダイナマイトの語源となった単語です。聖霊とは神の霊のことです。イエスは、神の霊が注がれると、人は「力」を受けると言われました。確かにそれが実現しました。

### • 使徒の働き 2:1-4

2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。

2:2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼ら

が座っていた家全体に響き渡った。

2:3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。

2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

・皆さん！ 「力」は生きる原動力です

\*このように、聖書はイエス・キリストと出会いをした人々が、「喜び」と「力」を受けたと記しています。

私たちがイエスに「出会う」ならば、喜びと力を受けることができます。

## 2. 「希望」が与えられる

・近年はコロナ禍によって、世界経済が沈滞してしまいました。残念ながら、人生において生きる力を見失った人々もいます。それは先に光が見えない暗い状態だからです。

・しかし、今は経済が少しずつ回復してきました。世界は回復途上にあります。⇒「希望」が見えはじめました。

・聖書の中には、生きる希望を失った女性が記されています。

マルコ福音書 5章 25-34節

5:25 そこに、十二年の間、長血をわずらっている女の人がいた。

5:26 彼女は多くの医者からひどい目にあわされて、持っている物をすべて使い果たしたが、何のかいもなく、むしろもっと悪くなっていた。

5:27 彼女はイエスのことを聞き、群衆とともにやって来て、うしろからイエスの衣に触れた。

5:28 「あの方の衣にでも触れれば、私は救われる」と思っていたからである。

5:29 すると、すぐに血の源が乾いて、病気が癒やされたことをからだに感じた。

5:30 イエスも、自分のうちから力が出て行ったことにすぐ気がつき、群衆の中で振り向いて言われた。「だれがわたしの衣にさわったのですか。」

5:31 すると弟子たちはイエスに言った。「ご覧のとおり、群衆があなたに押し迫っています。それでも『だれがわたしにさわったのか』とおっしゃるのですか。」

5:32 しかし、イエスは周囲を見回して、だれがさわったのかを知ろうとされた。

- 5:33 彼女は自分の身に起こったことを知り、恐れおののきながら進み出て、イエスの前にひれ伏し、真実をすべて話した。
- 5:34 イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」
- ・まず、この女性について考えてみましょう。
    - 1 2年、長血を患うとは、絶えず出血が止まらない状態です。それはユダヤ社会で、汚れ、罪と理解されました。ですからユダヤ社会の外に置かれた女性で、本当に気の毒な人でした。
  - ・その上、医者からひどい目にあわされたとあります。彼女の病状は回復ではなく、さらに悪化していたようです。回復する見込みもなかったでしょう。相当な損失と、心の傷を受けていたに違いありません。
  - ・女性の行動は、次のように記されています。
    - 5:27 彼女はイエスのことを聞き、群衆とともにやって来て、うしろからイエスの衣に触れた。
    - 5:28 「あの方の衣にでも触れれば、私は救われる」と思っていたからである。
    - 5:29 すると、すぐに血の源が乾いて、病気が癒やされたことをからだに感じた。
  - ・皆さん。私たちも人生において、希望を失うことがあるかも知れません。しかし希望はあります。それは ⇒イエスの衣に触れることです。するとイエスから、計り知れない「力」が与えられます。この女性は重い病気を患い苦しんでいました。
  - ・しかし彼女はイエスに触れたことによって、完全に癒やされました。では、今の時代、目に見えないイエスに、どのように出会うことができるでしょうか。⇒ 心にイエス・キリストをお迎えすることです。自分の今の姿を、イエスに正直に言い表すことです（祈りによって）
  - ・イエスは言われました。マタイ福音書9章
    - 9:12 イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人です。
  - ・イエスは、私たちの助け主です。そして次のように約束しておられます。
    - ヨハネ福音書14章
      - 14:18 わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。あなたがたのところに戻って来ます。
  - ・私たちは、神の約束に生きる「希望」があります。

ま と め
-------

主 題：「変えられたいあなたへ」

—「出会い」—

- 人生には大切な「出会い」があります。私たちは、どんな出会いをしているでしょうか。イエスに出会う人は、喜び、力、そして希望が与えられます。あなたは、人生を変えたくありませんか。あるいは、満足しておられるでしょうか。人生に喜び、力、そして希望を得たいと思われませんか。
- 聖書は次のように勧めています。 [マルコの福音書5章](#)  
5:34 イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」

\*God bless you !